

授業科目名	<b>専 門 実 習 II</b> <i>Specialized Nursing Practicum I</i>		担当教員	専門領域の教員	
開講年次	2年通年	セメスター	3・4	時間数(単位数)	90(2)
必修選択	選択	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	履修者各自が、それぞれの専門領域の実践力の向上を図るために、実習テーマ・目的を定め、計画を立案し、実施評価までの一連のプロセスを踏む。 尚、助産師養成教育を受けるものは、分娩・産褥早期の継続事例（新生児を含む）やその家族に対して助産ケアを行い、助産実践力の向上をめざす。				
到達目標	1. 各自の専門領域で必要とされる実践力について文献等を通して明確にできる 2. 1に基づき自己の実践力を評価し、本実習で取り組む実習テーマを設定できる 3. 設定したテーマに基づき、実習計画の立案・実施・評価ができる 4. 文献や理論を活用して、実習の成果をレポートとして記述できる				
授業計画	<p>【方法】</p> 1. 各自の専門領域の地域・集団・個人を対象とし、フィールドにおいて、各自が設定したテーマに沿った実習を計画、実施する（フィールドの開拓、実習計画の交渉などを含む）。 2. 実践力向上に向けて実施した実習の成果を、理論や文献を活用して、レポートにまとめる。 ※レポートは、実習終了後1ヶ月以内に提出する。				
	<p>【実習場所】</p> ・各自が目的にあったフィールドを選定する （選定にあたっては、各専門領域の教員と相談する）				
	<p>【実習期間】</p> ・学内での講義・演習等に支障のない時間で設定する。 ・実習時間は2単位90時間とする。				
	※フィールドワークを実施する場合は、学務課へ手続きが必要です。 「Ⅱ履修」の《研究に伴うフィールドワーク》を確認してください。				
学習方法	各自の専門領域あるいは関心領域でのテーマに基づき実習計画を立案し、目標が達成できるよう、自立して実習を行い、その結果を実習レポートとしてまとめる				
オフィスアワー	各専門領域の教員のメールアドレスを確認し、事前にアポイントを取ってください				
テキスト	指定しない				
参考文献	指定しない				
評価方法	「課題に基づく実習成果」についてのレポート（60%）、目標達成度(40%)				

授業科目名	<b>専 門 実 習 II</b> <i>Specialized Nursing Practicum II</i>			担当教員	永松 美雪、石山 さゆり
開講年次	2年通年	セメスター	3・4	時間数(単位数)	90 (2)
必修選択	選択 (助産教育コース 必修)	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	履修者各自が、それぞれの専門領域の実践力の向上を図るために、実習テーマ・目的を定め、計画を立案し、実施評価までの一連のプロセスを踏む。 尚、助産師養成教育を受けるものは、分娩・産褥早期の継続事例（新生児を含む）やその家族に対して助産ケアを行い、助産実践力の向上をめざす。				
到達目標	1. 継続受け持ち事例の分娩、産褥、新生児の助産診断が実施できる 2. 受け持ち事例の分娩介助が実施できる 3. 入院時の産後ケアが実施できる 4. 産後の保健指導案の立案と個別の保健指導が実施できる				
授業計画	I. 目標： 妊娠期に受け持った継続事例の分娩および産褥早期（新生児を含む）の助産診断を行い、必要な助産ケアを展開する。 II. 方法 1. 実習期時期:6月 対象の分娩の進行、入院期間に合わせて実習日を設定する。(分娩予定日5月末～6月初旬) 2. 実習施設 筑紫クリニック あさの葉レディースクリニック 3. 実習の進め方 1) 分娩予定日前に、分娩の初期計画を立案し、産婦の状況に応じて助産診断を修正しながら助産ケアを行う。 2) 分娩終了後、早期に産褥期の助産計画（新生児も含む）を立案し、日々の助産計画を修正しながら助産ケアを行う。 3) 個別指導（授乳、沐浴、退院指導など）を行う前に、必ず指導案を立案し、教員および臨地指導者の指導を受け、実施の許可を得る。 III. 実習上の留意点 助産ケアの展開においては、エビデンスに基づく実践を心がける。 助産診断をもとに予防的ケアを行い、助産ケアの一貫性、継続性を図る意義などについて考察する。 注) 本実習には、受胎調節実地指導員資格を取得するための実習を含む。				
学習方法	妊娠中期から受け持った継続事例と信頼関係を築き、正常に経過するための助産ケアを実施する。新しい家族関係が構築できるための助産師の援助について考察する。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール（永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp、石山：s-ishiyama@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	指定しない				
参考文献	助産学関連の図書、文献など				
評価方法	実習評価表（100%）				